

【ISO/TC306 活動は JKA の助成事業です】

2024 年 11 月 6 日

ISO/TC306 総会（フランクフルト）参加報告（鑄造機械の国際標準の制定活動）

機材部会 ISO/TC306 実行委員会

日本鑄造協会は日系鑄造企業と日系鑄造機械メーカーの国内外での競争力を維持向上させるため、鑄造機械の国際的な規格化に積極的に対応している。（公財）JKA から機械振興補助事業の補助（2019 年度より）を受けながら、2017 年から国際会議に参加、鑄造機械の ISO/TC306 規格化に取り組んでいる（表 1）。

TC306 の主な活動としては、鑄造機械の用語と安全要件の標準化である。鑄造機械の用語は中国が、鑄造機械の安全要件ではドイツが中心となって、日本をはじめとした Participating member（P メンバー、現時点で 8 ヶ国）が連携して ISO/TC306 国際規格素案を作成・協議・認証を行ってきた。

10 月 31 日に、ISO/TC306 の第 8 回 Plenary Meeting（総会）国際会議がドイツ・フランクフルトで開催され、ドイツ・フランス・スイス・イタリア・中国・日本の 6 ヶ国からの参加者がハイブリッド形式（対面とオンライン）にて協議を行った。議題として目新しい案件協議は見られなかったが、新メンバーの紹介・顔合わせが和やかな雰囲気の中で実施された。また 2025 年秋に、輪番開催国として日本がホストを行うことが求められ、会議・ウェルカムパーティー・工場見学など一連のイベントを担うことが決まった。

今回の議題中で最も長時間の討議となったのは、中国代表団より提案された、新規ワーキンググループ活動として、「取鍋・自動注湯機・溶湯搬送」「連続鑄造（製鋼所設備）」「低圧鑄造機」の規格制定活動が提案された。結果として「取鍋・自動注湯機・溶湯搬送」「連続鑄造（製鋼所設備）」は、中国を除く 4 か国の反対で否決された。一方、低圧鑄造機については、今回の提案は否決されたが、ワーキンググループ活動の再提案に向けて、サブコミッティーを立ち上げ、対象範囲を絞り込んで、来年度再提案を提出し、ワーキンググループ活動開始の可否を討議することとなった。

ISO/TC306 の国内審議委員会は、日本鑄造協会の機材部会の会議において定期的に活動報告を行っているが、本鑄造ジャーナルにおいても定期的な報告を継続していく予定である。

表 1 ISO/TC306 のワーキンググループ（2024-11 現在）

Working Group 1	鑄造機械の用語制定
Working Group 2	造型機・中子成形機等の安全要件
Working Group 3	高圧ダイカスト機等の安全要件
Working Group 4	ショットブラスト機等の安全・環境要件

以上